

総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業実践事例

都道府県名 高知県 受託団体名 (財)高知県体育協会(とさ広域スポーツセンター)

実践テーマ 障害者のスポーツ参加機会の向上

～障害のある人もない人も誰もがスポーツを楽しめる環境を整備する～

【テーマ設定の理由】

障害のある人が身近な地域でスポーツを楽しんだり、障害のある人とない人が一緒になって触れ合う場や機会が十分でない現状がある。そこで、「障害者のスポーツ参加機会の向上」をテーマに設定し、総合型クラブが地域の中心となって、障害の有無に関わらず、住み慣れた地域でいつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりについて考える。

実践クラブ評価委員会

- 稲田 俊治(高知大学教授)
- 宮地 彌典(高知県障害者スポーツ指導者協議会長)
- 伊藤 篤雄(高知県体育指導委員連絡協議会長)
- 大坪 豊寿(高知県スポーツ栄養士研究会長)
- 田井 直子(NPO法人総合クラブとさクラブマネジャー)

課題解決のために連携をとった機関・団体

- 高知県健康福祉部障害保健福祉課
- 高知県障害者スポーツ指導者協議会
- 社会福祉法人高知県社会福祉協議会

【上記機関・団体と連携をとった効果】

高知県は、県民が住み慣れた地域で生涯健やかで心豊かに暮らすことのできる「日本一の健康長寿県」を目指しており、共に支え合いながら、生き生きと暮らすことのできる地域づくりを推進する県障害保健福祉課や県社協との連携は、地域活性化を目指すうえで大きな効果があった。また、障害者が安心して安全にスポーツに取り組める環境整備のためには、優秀な指導者の存在が不可欠である。そういった意味から、指導者協議会からの指導者派遣などの協力は、本事業の充実に繋がった。

実践クラブ名 高知チャレンジドクラブ

【クラブ概要】

- ・設立年月日 平成 19 年 3 月 26 日 設立
- ・クラブ所在地 高知県高知市春野町内ノ谷1-1
- ・クラブの特色 県立障害者スポーツセンターを活動の拠点とし、障害のある人もない人も、子どもからお年寄りまで全ての人々が、スポーツや文化活動を通して、仲間づくりや社会参加、また、自分の可能性に挑戦することの楽しさを実感できるクラブづくりを目指している。
小・中・高等学校等に積極的に出向く「障害者スポーツ体験教室」や、障害者が日常的にあまり体験することのできない「バリアフリーダイビング体験教室」等を実施している。
- ・クラブマネジャーの活動状況 非常勤・無給
- ・会員数(H20.7.1現在) 160 人 ・定期活動種目数 13 種目
- ・会費の種類と金額 年会費 大人2,000円 こども1,000円 保険料別
賛助会員 個人1口3,000円 団体/企業1口5,000円
- ・平成20年度総予算額 10,584,700 円

実践プロジェクト①

障害者スポーツ体験教室

◆プロジェクトのねらい

県内の小・中・高等学校の総合的な学習の時間や、県内の総合型クラブ等を対象に障害者スポーツの体験教室を開催し、子ども達を中心に障害者スポーツ及び総合型クラブの現状について知ってもらうとともに、誰もができる障害者スポーツの普及を目的とする。また、同時に、県内の障害者が自分たちが暮らしている地域でスポーツができる環境づくりを推進していく。

◆実施概要

会場：高知県内の小・中・高等学校等
期間：平成20年6月6日～平成21年2月20日（全46回）
指導者：障害者スポーツの現役選手・障害者スポーツ指導員等
内容：障害者スポーツ体験・デモンストレーション・選手との懇談

◆参加者数 参加者：3,573名 指導者及びサポートスタッフ：90名 合計：3,663名

◆活動の様子



◆評価

先生等の口コミにより、対応しきれないほど、非常にニーズの高い教室になっている。
小・中・高等学校の「総合的な学習の時間」等を使って、障害当事者が講師となり「心のバリアフリー」の授業を展開した。こういった交流を体験した子ども達が将来大人になった時に、本当にユニバーサルな街がうまれていくのではないかと考える。
また、先生たちにも「総合型クラブ」を知ってもらう場となっている。

実践プロジェクト②

サポートダイバー養成講習会

◆プロジェクトのねらい

障害者や高齢者が、気軽に安心してダイビングが行える環境を作り上げていくための人材育成とともに、サポート体制の整備を行う。

◆実施概要

会場：高知県立障害者スポーツセンター / 海辺の果樹園
期間：平成20年10月4日～5日
指導者：日本バリアフリーダイビング協会公認インストラクター・講義講師等
内容：障害学（聴覚・視覚・知的・肢体・精神）・安全対策・プール実習

◆参加者数 受講者：14名 指導者及びサポートスタッフ：7名 合計：21名

◆活動の様子



◆評価

昨年4名のインストラクターを養成し、本年は、その4名が講師となりサポートダイバー養成講習会を開催した。本年は、新たに14名のサポートダイバーが誕生し、高知県において、障害者や高齢者が気軽に安心してダイビングができる環境が整いつつある。
今後は、養成した人材を中心に組織づくりが課題である。

実践プロジェクト③

バリアフリーダイビング体験教室

◆プロジェクトのねらい

高知県は雄大な太平洋に面しており、日本でも有数のダイビングスポットが多数ある。そこで、障害者とその家族・友人、そして地域住民を対象に「バリアフリーダイビング体験教室」を開催する。

海の世界という非日常的な体験をすることにより、感性豊かな心を育み、自分自身の新たな可能性を発見してもらうとともに、障害者と健常者のふれあい交流を目的とする。

◆実施概要

会 場: 大月町竜ヶ迫白崎

期 間: 平成20年10月18日～19日

指導者: 日本バリアフリーダイビング協会公認インストラクター・サポートダイバー

内 容: ダイビング体験

◆参加者数 参加者: 9名 指導者及びサポートスタッフ: 20名 合計: 29名

◆活動の様子



◆評価

インストラクター4名、サポートダイバー10名のもと、バリアフリーダイビング体験教室を開催した。

初めてダイビングする方や、諦めていた夢に再度挑戦される方など、県内外から9名が参加し、海の世界を通じて、自分の可能性に挑戦する機会となった。

また、本年資格を取得したサポートダイバーの実地研修の機会となった。

実践プロジェクト④

ユニバーサルフェスティバル2008

◆プロジェクトのねらい

幡多地区(高知県西部)において、子ども・高齢者・障害者等を対象とした、スポーツ交流イベントを開催。総合型クラブの特長である、「多種目・多世代」をテーマとした交流を目的とする。また、広く「総合型クラブ」を知ってもらう機会とし、県民に障害者スポーツを通じて、高知チャレンジクラブの活動をPRする。

◆実施概要

会 場: 土佐西南大規模公園(黒潮町)

期 日: 平成20年11月30日

スタッフ: プロジェクト委員・実行委員・障害者スポーツ指導員

内 容: 車椅子テニス体験教室・スポーツ交流大会等

◆参加者数 参加者: 235名 指導者及びサポートスタッフ: 55名 合計: 290名

◆活動の様子



◆評価

高知チャレンジクラブと同じ理念を持ち、来年度設立予定の総合型クラブ「ユニバーサル四万十」、また、「黒潮町教育委員会」等と協力して、地域で一大イベントのスポーツフェスティバルを開催した。北京パラリンピック車椅子テニス競技金メダリストの国枝慎吾選手、丸山コーチを招聘し、車椅子テニスの体験や、障害者と健常者が一緒に行うことができるスカッシュ/バレー交流大会、参加者が気軽に参加できるビームラフル体験教室等を実施した。特に、西部地区の障害者スポーツの拠点となり得る、黒潮町教育委員会、黒潮町社会福祉協議会とのネットワーク化に繋がるイベントであった。

◆プロジェクトのねらい

障害を持った方たちがスキー等の体験することは、「やってみたいが、ハード面から非常に難しい」という声が聞こえてくる。そこで、ニーズに応えるためにも、高知チャレンジクラブがサポート体制(指導者含む)を整え、障害を持った方たちを対象に雪遊び・初心者スキー教室を開催し、新しいことへ挑戦することや、可能性を広げることを目的とする。

◆実施概要

会 場:ソルファ・オダ スキー場(愛媛県)

開催日:平成21年2月8日

指導者:スキーインストラクター・障害者スポーツ指導員

内 容:スキー体験

◆参加者数 参加者:29名 指導者及びサポートスタッフ:5名 合計:34名

◆活動の様子



◆評価

日常では、あまり体験することのできないスキー体験。

今回の参加者からは、昨年同様、「障害があるために、こんな経験はできないと思っていた」という声も聞かれた。しかし、サポート体制を整備したり、ほんの少しの工夫で障害者もスキーができる可能性が生まれてくる。

今回は、身体・知的障害の子どもたちと健常児たちが、スキーを通して一緒に活動することにより、様々な発見・交流・体験に繋がった。

その他の取組

- ・プロジェクト会議 ・エアロビ教室 ・健康づくり教室 ・運動の苦手な子の教室
- ・水泳教室 ・シッティングバレーボール教室 ・夏祭り(障害者スポーツフェスティバル)
- ・卓球交流大会 ・車いすバスケットボールスキルアップ教室

本事業の成果

○小、中、高等学校の総合的な学習の時間や総合型地域スポーツクラブ等が開催する教室・イベント、社会福祉協議会が実施するスクール等に出向き、障害者スポーツ及び総合型クラブの現状について知ってもらうために、「障害者スポーツ体験教室」を昨年に引き続き開催した。19年度は、1,877名を対象に18回の開催であったが、本年度は、本教室のニーズの高さから46回に開催数を増やし、指導者・サポートを含めて3,663名の参加のもと実施した。

特に、本年度は、体育指導委員協議会からの要請があり、学校以外の地域への広がりが出始めた。

学校だけではなく総合型クラブや体育指導委員協議会等にまで広がりにつつあるこのプロジェクトは、クラブ自ら積極的に地域へ出向くことにより、クラブの存在をアピールでき、障害者の理解にも繋がる意味あるプロジェクトに発展している。

○高知チャレンジドクラブでは、将来的に県東部、西部にもクラブの支部的役割を担う総合型クラブの立ち上げを目指している。本年度、障害者スポーツへの理解を深めることと総合型クラブの普及・啓発等のために、「ユニバーサルフェスティバル2008」を県西部地区の黒潮町において開催した。

北京パラリンピック車椅子テニス競技金メダリストの国枝慎吾選手を招き、デモンストレーションや車椅子テニス教室をメインに、障害者と健常者が一緒に行うことができるスカッシュバレー交流大会、参加者が気軽に参加できるビームライフル体験教室等を実施した。

このフェスティバルには、子どもから高齢者まで、また、障害の有無に関わらず300名の参加があり、特に、西部地域を中心とした障害者スポーツの発展とスポーツを中心とした地域の活性化、また、今後、西部地区の障害者スポーツの拠点となり得る、黒潮町教育委員会、黒潮町社会福祉協議会とのネットワーク化に繋がるイベントであった。

このフェスティバルの中心的役割を担った「ユニバーサル四万十」は、来年度、総合型クラブの立ち上げを予定している。高知県体育協会、とさ広域スポーツセンターが連携して行っている、総合型クラブの育成に向けた取り組みと連動している。

○高知県特有の豊かな自然環境を利用した、障害の有無に関わらず誰もが参加できるマリンスポーツの普及・発展を図るためには、優秀な指導者の育成が必要である。資質の高い指導者のもとで、障害者は安心してスポーツに取り組むことができる。

本年度の「サポートダイバー養成講習会」には14名の参加者があった。その内10名が高知大学医学部の学生であり、医学的知識を備えたサポートダイバーの養成に繋がった。

講習会終了2週間後に実施した「バリアフリーダイビング体験教室」では、先の養成講習会を修了した10名のサポートダイバーの献身的なサポートのもと、県内外から9名の参加者があり、全国的にも稀な、障害者のマリンスポーツの普及に努めている。「まさかこの歳になってもう一度海に潜れるとは思わなかった」、「支えてくれたスタッフに感謝します」などの感想が寄せられた。

この体験教室には香川県から5名の参加があり、県外へも広がりはじめた。

本事業の課題と今後の取組

・「障害者スポーツ体験教室」については、今まで学校を中心に実施してきたが、今後は、市町村レベルでの実施に広げていく必要がある。

・県東部への障害者スポーツの広がりが十分でない現状から、県東部における障害者スポーツの普及や総合型クラブの啓発に努める必要がある。来年度は、県体育協会と広域スポーツセンターが連携して開催する「総合型クラブ啓発フォーラム」を県東部(安芸市)で開催する予定であり、本事業と連動した取り組みを行う。

・障害者スポーツの普及・発展を図るためには、優秀な指導者の育成が必要である。広域スポーツセンターが高知県障害者スポーツ指導者協議会との連携を密にし、継続した指導者の養成を行う必要がある。

(本件問合せ先:財団法人高知県体育協会 TEL:088-873-6263)